

小論文

慶應義塾大学 経済学部 1/2

設問 A

【解答例 1】

保守主義者が、変化を妨げるためには政府の権力をも使用する傾向があるのは、設計されていない変化を歓迎する勇気を欠くからである。また、自由主義者と違い、保守主義者はとくに経済の分野において市場の自己調整力に対する信頼を欠くからである。さらに、保守主義者は、権威に対する愛着と、経済的な力に対する理解の欠如から、社会秩序の維持に関する一般的な概念を作り出す能力を欠き、権威を縛る原則を定式化できないのである。

【解答例 2】

変化に好意的で、新しく自生してくる制度や秩序の意義を理解する自由主義者に対し、保守主義者は変化を好みず、新規の制度や秩序に対して不信感を抱く。保守主義者は社会の自生的な調整力を信頼しない。保守主義者は権威主義的で、賢人と善人の統治を望み、その権力の制限に無関心である。自由主義者は他者の権利を侵害しない者にある種の道徳を強制することに反対するが、保守主義者は自身の道徳的信念を他者に強制したがる。

【設問 B】

【解答例 1】

社会主義者と保守主義者はいずれも、自らの価値観を社会全体に強制することを正当化し、国家権力の無制限な行使を肯定する点で共通している。そのため、社会主義の理念に挫折した者も、他の人々への価値の強制を否定し権力制限を重視する自由主義よりも、思想構造の近い保守主義へと移行しやすい。

外国人受け入れの問題において、保守主義者は文化的同質性の維持や治安悪化への不安から流入制限を主張し、既に日本で働く外国

人に対しても厳格な規則遵守を求め、外国人との共生という問題から目を逸らそうとする。一方で自由主義者は、法秩序を前提とした自由な労働移動を認め、教育や日本語支援、社会保障制度の整備を通じて外国人を社会の構成員として包摂すべきだと考える。市場の自生的調整力により外国人労働も同等に統合されていく。それにより、労働力不足の緩和や技術革新を促し、経済の活性化や多文化への寛容度を高めるという変化も期待される。

【解答例 2】

社会主義者は社会主義的計画経済の失敗によって、経済発展のためには資本主義経済が選択されなければならないと悔い改める。だが彼らは政治的な自由のもつ価値を認めているわけではなく、社会全体の発展と秩序の維持のためには自由が制限されてもよいという考え方を棄てていない。権威主義的で保護主義的な保守主義の方が、国家資本主義を追求する上では都合がよいのだ。

現在、AIの目覚ましい進化があり、それは巨大な社会変動をもたらし、それは保守主義者たちを不安に陥れ、その結果保守主義の団体ではAIの社会的活用を規制することが試みられる。これに対し自由主義の団体では、社会変動に好意的で、資本主義はその調整力によって新たな発展段階を迎えるのだから政府権力による規制は必要ないと考えられる。AIは人間を労働から解放し、新たな能力を高めるものと自由主義者は見なし、成長のためのAIへの投資を社会に促す政策を採るだろう。

【解答例 3】

保守主義者と社会主義者は共に誰が権力を握るかに関心をもち、政府権力の制限を軽視する。両者は自分の抱く価値を他人に強いる

資格があるとみなし、「正しい」目的のためなら強制や恣意的権力を容認する。この性格ゆえに他人の保護領域を侵害しない行為への強制を拒む「自由主義の囲い」よりも、「保守主義の囲い」の方が親和性は高くなる。現代日本では、インターネット利用に対する倫理的規制が取り沙汰されている。ポピュリズム、かつ保守主義において道徳的使用を押しつけても、インターネット生活にそぐわず、倫理規範になりえない。だからこそ、権威主義的パターナリズムである法的規制を掛けようとする。だが、自由主義者はそれに反対する。インターネット利用においては、誰もが異なる目的を追求しながら予測不能な変化に対して自生的な調整に参加する。そして、自由な討議をすることが、対抗倫理の構築に欠かせないので。

客、住民共に利用できるシェアハウスといった新形態の創出も期待できるのではないか。

【解答例 4】

自由主義では、どんな確立された価値に対しても、それにもとづく強制を正当化しない。一方、保守主義は、政府の権力の制限に関心が薄く、自身の価値を他者に強要することを認めるため、社会主義者と相性がよい。

オーバーツーリズムの問題に対し、保守主義では宿泊業を規制しようとする。観光客増加を見込んで宿泊施設用に賃貸住居が買い上げられ、賃料が値上がりして地元住民に不利益が生じるからだ。しかし、変化を恐れ、政府の権力を使用して経済活動を規制するだけでは、観光業を生業とする住民の利益は減少する。この問題に対し、最小の強制による多様性の共存を図る自由主義者は、持続可能性の観点から、宿泊人数の総量規制ではなく宿泊税を徴収することで、市場の自己調整力による地元住民間の相反する利益の両立を図るだろう。市場の工夫を信頼するなら、観光